

今がんばってます 両津小学校

今年3月に発行された学校文集『しぶき』は、数えて第63号となりました。

巻頭言では、「作文は思い出」と題し、校長が次のように綴っています。

「思い出は、記憶としても残りますが、作文という文章の形で残されたものには、また大きな喜びを生む力があります。この『しぶき』に綴られた一人一人の作文、自分の分はもちろんのこと、友だちの作文にもかけがえのない思い出が記されています。両津小学校で生活した人生の足跡を、将来も感じ取ってください。」

書かれている作文のテーマも、学年を追うごとに多彩なものになっていきます。1年生時の身近な生活体験の記述から、運動会やマラソン大会、文化祭などさまざまな学校行事の思い出。そして、6年生時には、地球の環境問題やいじめの問題まで取り上げた評論文も見られます。6年生にとっては6冊目。小学校生活を振り返る貴重な宝物となっています。両津っ子には、文章で自分を表現する力を、これからも高めていってほしいです。

◎教育委員会学校教育課 58—7351



市立病院から こんには

両津病院 猪本 正人 先生 診療科目/歯科口腔外科
舌にできた「口内炎」が痛い！
それって本当に口内炎？

時々「口内炎ができて痛い」と訴える患者さんが来院されます。なぜか患者さん自ら「口内炎」と言われますが、私からすれば「それは本当に口内炎ですか？」と尋ねたくなります。

実は初期の舌がんと口内炎の視診上の病態像は酷似していて、専門医でも見分けがつきにくく、細胞を採取して顕微鏡レベルでしか診断できません。口腔に発症する病変は鏡で実際に見ることができると、自分で都合よく判断してしまつて安心してしまふものなのでしょう。そのため、逆に専門医による診断が遅れてしまう傾向があります。

特に舌がんは口腔がんの中では最も多く、20代から30代の若者にも比較的多く発症します。統計上、全国で年間4千人罹患、発症していると推定されます。

早期の舌がんで大きさが10mm以内であればほぼ100%近く治癒しますが、数か月放置して大きくなつてしまつと切除域が大きくなり、大きさに応じて治療期間も長くなります。

また、頸部リンパ節まで転移した場合は術後の顔貌が大きく変化します。

それだけではなく、味覚がなくなつたり、飲み込みに障がいが出たり、発音が思うようにならず生活の質が著しく低下し、精神的障がいまで引き起こすこともあります。そのため、「がん」そのものが治癒した後も精神的ケアが求められる疾患なのです。

原因は虫歯で欠けた歯や合わない義歯などが接触して起こる物理的刺戟、喫煙、飲酒等の化学的刺戟、遺伝その他の多因子が複合的に関与して発症すると考えられています。

口腔内の異変に気がついて、2週間たつても治らない場合には、自分で「口内炎」だと決めつけずに、ぜひ専門医による診断を仰いでください。

次回は両津病院の坂薬剤部長です。

